

平成 29 年度 第 2 回学校協議会記録

1. 授業見学 6 限目の授業を見学。

2. 学校長挨拶

機能統合により「柏原東」・「長野北」の閉校予定。旧 7 学区の中学生数は激減する予測。淀川以北は増、泉北・泉南は微減、大阪市内は増。東大阪と南大阪が減少。

今後 5 年の再編整備計画は未定だが、「3 年連続定員割れ」による閉校の可能性について、本校は危惧している。管理職を中心に全教員で地域の中学校にアピールし、入試を乗り切りたい。

3. 取組みの進捗状況

広報、人権、1 年主任、2 年主任、3 年主任、生徒会、教務、進路、生徒指導、総務、保健各部署より現状報告。

4. 生活実態調査報告

教頭より報告

4 月と 9 月の調査結果から変化した点を挙げる。特に 1 年生で変化があった。

1 年生については、携帯電話の所持率が 96%。使用料の負担が、「保護者負担」が 87.1%から 74.5%で 12.6%減。一方、「アルバイト代から」が 7.1%から 16.6%で 9.5%増。アルバイト代から負担している者が増えているようだ。また、使用時間については、「2 時間以上」が 66.5%から 78.1%で 11.6%増。2 年生は変化がみられないので、高校入学後、「携帯電話を持てた嬉しさ」から使用時間増があるのではないかと。

「アルバイトをしていますか」の設問に対して 24.9%から 56.2%で 27.7%増。データにはないが、部活動を途中退部の生徒も増加しており、一方、「授業の雰囲気について」「私語が多く半数以上聞いていない」が 2.5%から 29.6%で 27.1%増加し、生徒の睡眠時間も減少している。アルバイトと携帯電話の使用により睡眠時間がとれず、授業に集中できていない実態が考えられる。授業の進度について「思ったより簡単で十分ついていける」が 52.8%から 28.7%で 24.1%減。一方で「授業が難しい」と感じる割合が増加。授業に対する「慣れ」が考えら、今後指導をしていく必要がある。

2 年生については、アルバイトしている率が 70.9%と高い。授業中「居眠り」をする率も 8.1%から 11.8%で 3.7%増。アンケート項目にはないが、例年、昼食を食べない生徒が増えてくる時期なので、学校では「昼食を食べる」よう指導し、「しっかり寝て、食べる」など家庭での過ごし方についても呼びかけて必要がある。併せて「授業の工夫」も行う。

5. 協議

協議員：授業見学をした。午後からの授業だったが、予想以上に生徒が元気だった。

3 年生は、生徒が前向きに授業を受けていた。先生からの問いかけの前に、自分で考えている子が多くみられ、感心した。学校行事を通じてリーダーシップを育んできたことが窺えた。クラスの雰囲気・人間関係が良いと感じた。今後、進路・卒業へ向けて頑張ってもらいたい。

2 年生は、生徒が元気であった。双方向の授業で、数学の難しい内容に、生徒が熱心に受けている姿勢がみえた。

1 年生は、定員割れの学年と聞いていたので心配したが、落ち着いて授業を受けていた。欠席も少なかった。各部署からの報告で、5・6 月の取組の成果が良かったと考える。成績上位者も沢山おり、「授業を聞いている」率が 60%から 20%に減っているのは、「自覚が有る」ということで、その「自覚」を指導に活かされてはどうか。

「定員割れ」に対しての危機感がよく伝わってくる。今年は、文化祭を含め 5 回のオープンスクールを開催され、110 校の中学訪問され、反応はどうであったか？

教員：昨年は10月頃に訪問したが、今年は時期を早め「夏休み」に行った。一部の学校では、平野高校に進学しそうな生徒は、既に「私学進学」を考えていると言われた。しかし、柏原東・長野北の閉校決定から、広範囲の中学校に案内を郵送した。また、現在遠方の中学からの問い合わせもあり、丁寧に対応したい。

協議員：PTAでの文化祭準備をするため、個人的に保護者の方に電話連絡した。中には協力を拒む方もおり、報告の中で「クラブに入っても参加しない生徒」の様子なども聞いたので、保護者も同様なことがみられたと思った。これは、日頃からのコミュニケーション不足から起きているのではないかと。モラルや学習面での問題など、話し合いがあれば解決のするのではないかと。できれば、保護者・生徒・教員との3者面談が増えると話すチャンスができるのではないかと。

協議員：3年間委員をしているが、学習・生活面などで少しずつ緩くなっている印象がある。特に1・2年生は、学校での指導の問題だけでなく、家庭の状況も原因があるように思う。先生の頑張りに対して、生徒が応えてくれないこともあるようだが、3学年の報告での「常に教員集団の中の課題発見に努め、教員の意識を高めることが重要」とあったように、先生の「危機感」や「思い」を生徒に伝えてほしい。生徒が、日々の生活で軌道に乗ることができれば良い学校のイメージが出来上がるので、頑張してほしい。

教員：生徒指導をしていて最近悩むことがある。今の生徒は「ほめて育てる」という環境で育った。単に登校しているだけで「ほめられる」、何もしてなくても「ほめられる」、これでいいのか。目標に向かい達成し、また頑張ろうと思えるような指導したいと考える。しかし、中には、このような指導を受け入れない生徒がいるので教員として、どのように指導したらいいのか迷う。厳しくすると悪い循環になり、優しくすると甘え、さじ加減が難しい。保護者の方との対応でも難しい場面もあり、日々悩んでいる。

協議員：親子でも難しく、機嫌を損ねると何もなくなる。保護者も面倒になり、注意しなくなることもある。昔は、「学校の先生に怒られてナンボみたいな」感じだったが、今はちがう。社会に旅立つ子どもたちに、今しっかり指導しないと、社会に出ても続かないと思う。

教頭：家庭も巻き込んで「頑張る生徒」に育てたい。大人になる最後の重要な時期だと思う。

協議員：中学校でも同様で、苦言を呈せばそっぽを向く。先生に、ちょっとしたことで「ほめられ」高校に進学する。家庭も生活実態が苦しい状況のため、無関心になりやすい。先生方が、生徒のことを思いながら、試行錯誤され、指導していることが大切なことだと思う。生徒にとって高校は、「最後の場所」であるので、見捨てないで、指導してほしい。

教頭：貴重なご意見をいただき、これから文化祭、進路選択、成績状況などが大詰めとなるこの時期を大切に、今後の指導に向けて頑張りたい。

6. その他 諸連絡

次回は第3回。1月31日予定。後日連絡いたします。